



(2024.1.1) 能登半島地震募金のお願い

[石川革新懇へ送金]

○郵便振替 送金先口座 00710-2-27233
口座名義 石川革新懇

※通信欄に「能登半島地震支援金」とご記入ください

地域に根ざした人権運動を決意

全国人権連結成20周年の節目

第10回全国大会を開催

全国地域人権運動総連合（全国人権連）の第10回定期大会が2月1日、東京都千代田区の神田エッサム本社ビルで開かれました。コロナ禍の影響で、対面式の大会を開くのは2018年の大分県別府大会から6年ぶり。地域の人権確立を目指す運動をさらに前進させるための方針を確立しました。

大会は内海ハル子常任幹事の司会ではじまり、全国人権連を代表して丹波正史代表委員があいさつ。冒頭、能登半島震災で亡くなられた犠牲者へのお悔やみと被災者へのお見舞いを述べた後、イスラエルのガザ侵略に触れ、「被差別の立場だった者が排外主義に染まっ

て、抑圧、差別をする側は、高齢単身者の急増、部落問題解決について



第10回大会。左下円内は来賓あいさつを行う仁比聡平参院議員

に立つ深刻な排外主義に転じた。この点にメスを入れ、排外主義を克服する運動が問題の本質的解決に必要」と指摘しました。

部落問題解決については「社会問題としての部落問題は解決してきたことは間違いがない。しかし、大規模地域においては、高齢単身者の急増、

若者世代の流失など、地域課題が顕在化し、地域力が弱まっている」と現状を分析、「旧身分の垣根を越えた地域の共同の取り組みを今こそ前進して、住みやすい安心できる誰もが差別のない地域をつくらう」と呼びかけました。(詳細は2面)

国が一つであることと同時に各々の地域の課題を解決していこう」との決意を込めて大会を締めました。

(編集部より) 2月2日に行った政府との話し合いは次号以降に掲載します。

閉会のあいさつで中島純男代表委員は「皆さん純男代表委員は「皆さんの知恵を出し、力を合わせ、住民に依拠しながら運動する大切さを改めて襟を正していきたい。全国

全国人権連第10回全国大会選出役員名簿

2024年2月1日

常任幹事会16名 (氏名昇順)

| 役職名 | 氏名 |
|-------|-------------|
| 代表委員 | 有馬 理恵 (本部) |
| 代表委員 | 川口 學 (福岡) |
| 代表委員 | 丹波 正史 (愛知) |
| 代表委員 | 中島 純男 (岡山) |
| 代表委員 | 橋本 忠巳 (和歌山) |
| 代表委員 | 吉村 駿一 (本部) |
| 事務局長 | 新井 直樹 (茨城) |
| 事務局次長 | 植山 光朗 (福岡) |
| 事務局次長 | 清水 信江 (島根) |
| 事務局次長 | 丹波 史紀 (本部) |
| 事務局次長 | 吉岡 昇 (岡山) |
| 常任幹事 | 内海ハル子 (埼玉) |
| 常任幹事 | 川口伊智子 (福岡) |
| 常任幹事 | 西浜 典泰 (三重) |
| 常任幹事 | 平井 雅希 (愛知) |
| 常任幹事 | 前田 武 (兵庫) |

幹事定数26名 監査2名

| 幹事 | 氏名 | 幹事 | 氏名 |
|-------|-------|------|-------------|
| 茨城 ① | 永井 和典 | 島根 ① | 片寄 直行 |
| 群馬 ① | 坂本 光義 | 山口 ① | 澄田 幸雄 |
| 埼玉 ① | 川崎 栄蔵 | 山口 ② | 末長 正 |
| 東京 ① | 片倉 洋 | 愛媛 ① | 西本 敏 |
| 神奈川 ① | 長嶋 茂 | 福岡 ① | 武藤 哲志 |
| 愛知 ① | 横江 英樹 | 熊本 ① | 菅井 幸夫 |
| 愛知 ② | 岡本 幸信 | 大分 ① | 用松 律夫 |
| 三重 ① | 橋本 進 | 本部推薦 | 保留 |
| 京都 ① | 藤谷 剛 | 本部推薦 | 赤松 英知 (共作連) |
| 兵庫 ① | 前田 泰義 | 本部推薦 | 神沢 和明 (群馬) |
| 和歌山 ① | 鈴木 幸夫 | 本部推薦 | 丹波 琢磨 (共済会) |
| 岡山 ① | 竹内嘉寿子 | 本部推薦 | 長田 弘行 (兵庫) |
| 岡山 ② | 中島 正智 | 監査 | 間中 広 (茨城) |
| 鳥取 ① | 田中 克美 | 監査 | 山口 覚 (群馬) |